

環境先進国に見る都市農園の形成意義と都市空間・都市生活に与える影響について

～デンマーク式都市農園コロニーヘーヴを対象に～

The significance of urban farm and its impact on the urban space and life
in an environmentally advanced country ~focusing on Kolonihave as Danish-style urban farm~

時空間デザインプログラム

13M43070 大内茉莉 指導教員 土肥真人

Environmental Design Program

Mari Ohuchi, Adviser Masato Dohi

ABSTRACT

Denmark, as an environmentally advanced country, has a system for sustainable urban development and Machizukuri, and it enables Danish people to live with the nature in urban space. This research aims to figure out the importance of the development of urban farm Kolonihave, which has a special style of Danish allotment garden, and the role of it by studying the impact of the garden to the urban space and the urban life. Interviews were conducted with Denmark Kolonihave Federation, 7 Kolonihave associations, and an officer of Copenhagen Council. The following conclusion has been drawn: 1) The historical evolution of Kolonihave and the spatial allocation were clarified; 2) The historical transition of Kolonihave is the trajectory of acquisition of citizenship; 3) Kolonihave makes possible to keep the nature in urban space, and it promotes diverse citizen participation in the city; and 4)Kolonihave gives opportunities to touch the nature, and it enriches the mind and life.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

デンマークでは生活者大国として、また環境先進国として生活者第一に環境に配慮した都市開発やまちづくり、国づくりが行われている。2012年から国際連合（UN）が行っている世界幸福度ランキングでデンマークは常に上位に位置し 2013年、2014年とそして 2016年度においても総合ランキング 1位を獲得していることから、デンマーク国民の生活に対する満足度は高いと言える。本研究ではその中でもコロニーヘーヴというデンマーク特有の都市農園が都市空間・都市生活に与える影響に着目する。デンマーク社会とコロニーヘーヴの関係性を紐解きながら、コロニーヘーヴが人と人、人と都市、さらには人と自然をつなぐ役割を捉え、持続可能社会に向けた都市空間や都市生活のあり方を分析し、デンマークに見る都市農園の形成意義を明らかにすることを目的とする。

1-2. 既往研究から見る独自性

主にドイツの市民農園であるクラインガルテン、イギリスのアロットメントガーデン、アメリカのコミュニティーガーデンについての先行研究が多くなされている。それ以外を対象にした学術論文はほとんどなく、三島¹によるウィーンの研究、勝²によるデンマークのコロニーガーデンを対象にした基礎研究などがあるのみである。また、市民権、民主主義の観点から都市農園を捉えている論文はなく、さらに本研究ではデンマークの都市農園であるコロニーヘーヴを対象としその役割と影響を捉え先進国に見る都市農園の形成意義を明らかにする点に独自性がある。

1-3. 研究対象

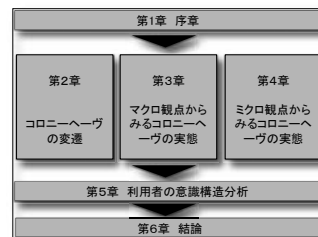
本研究で対象として扱うデンマークの都市農園であるコロニーヘーヴは、デンマーク語でKolonihaveと書く。集合体を意味するコロニー：koloniと、庭を意味するヘーヴ：haveから生まれた言葉で、庭のコミュニティーをさす。コロニーヘーヴを扱った論文では、Kolonihaveをアロットメントガーデン（Allotment garden）、もしくはコミュニティーガーデンと訳すことが多いが、本論文ではコロニーヘーヴの特性を示すためにデンマークの都市農園を指す言葉として「コロニーヘーヴ」を用いる。

1-4. 本論文の構成

本論の構成を【図1】に示す。2章～4章でコロニーヘーヴの実態を捉え、5章では利用者の意識構造分析を行い、6章をもって結論とする。

1-5. 研究方法

本研究では「Miljø & Energi Ministeriet : Kolonihavernes fremtid, 2000」などの公的資料、コロニーヘーヴ連盟が出版した文献を用いた調査、および文献では分からない事実と現在のコロニーヘーヴの運営、管理、利用実態、利用者の意識などを調査するべく、12月にデンマーク現地にてコロニーヘーヴ連盟、コペンハーゲン市、また利用者であるコロニーヘーヴ協会を対象としたアンケート、並びにヒアリング調査を行った。



【図1 論文構成】

2. コロニーヘーヴの変遷

2-1. I. 貧民の庭時代(17世紀から19世紀半ば)

17世紀後半、貴族の土地が貧しい市民のために小さな庭園として与えられ始める。これは貧困を軽減するための貧民の庭として発展し、1821年～1823年の間で少なくとも19の庭園が設立された。1821年に設立されたオーベンロー³の庭園は現存する世界最古のコロニーヘーヴとして保存されている。直接的な貧民救済ではなく効果的な貧困解決が期待されており、農業という仕事を与え失業から救うことでデンマーク全土の経済危機を救う目的も当時のコロニーヘーヴにはあった。

2-2. II. 労働者の庭時代(19世紀末～20世紀前半)

1884年3月19日オールボーに「労働者の庭(Arbejderhave)」という新しい貸し出し方法の都市農園が設立され、コロニーヘーヴに関する最初の条例が策定された。この時代は産業革命により大きく社会が変化し、それに伴い農村から都市への移動、そして都市部の急激な人口増加と劣悪な住環境により、労働者によるコロニーヘーヴ運動が起こる。こうした動きは政治組織においても重要な役割を果たし、コロニーヘーヴはこれまでの慈善事業として与えられるものから労働運動の結果勝ち取るものへと変化する。1906年には利用者組織によって共同で管理・運営がされる今日の運営形態に近いコロニーヘーヴ協会が初めて設立され、さらに1908年には利用者の権利を守るため、各コロニーヘーヴ協会が加盟するデンマークコロニーヘーヴ連盟も設立されている。

2-3. III. 供給の庭時代(20世紀半ば)

第1次、第2次世界大戦中と戦後、コロニーヘーヴは食料生産の手段として重要な役割を果たし、その農園としての機能に再び注目が集まるようになる。特に第2次世界大戦後には多くのコロニーヘーヴが開設され、その戸数は最大の約100,000戸まで数が伸びた。

2-4. IV. 発展期(20世紀後半～)

20世紀後半に入ると人々の生活は徐々に豊かになり、1930年代の労働法によって導入された休暇を一般の人々も利用できるようになった。さらに1日の労働時間が8時間に短縮されると多くの人々は夏中、あるいは少なくとも子供の7週間の夏休みの間はコロニーヘーヴに滞在するようになる。21世紀では人口増加による都市の拡大に伴いコロニーヘーヴの土地が没収される事態が起こるが、コロニーヘーヴの利用は市民の権利であるとし2001年にコロニーヘーヴ法が制定され、コロニーヘーヴの半永久的な保護が社会的に認められている。

2-5. 本章の考察

コロニーヘーヴは、デンマーク社会の時代の要請に応じてその性格と役割が形成され、社会に影響を与えていた。その性格と社会に与えた影響を【表1】にまとめる。

【表1 年代別コロニーヘーヴの性格と影響】

3. マクロ的視点から見るコロニーヘーヴの実態

年代	性格	影響
I. 貧民の庭時代 (17世紀から 19世紀半ば)	国王や貴族から市民へ与えられるもの	・ 貧困解決から当時のデンマーク経済に影響を与えていた ・ コロニーヘーヴの利用は市民の健康改善に期待された
II. 労働者の庭時代 (19世紀末～ 20世紀前半)	労働運動の結果市民が勝ち取るもの	・ 労働組合と政治政党に影響を与えていた ・ コロニーヘーヴ運動から労働者保護の動きをうみだした ・ コロニーヘーヴの利用は社会不安の防止や公衆衛生の推進につながっていた
III. 供給の庭時代 (20世紀半ば～)	命、暮らしを支えるもの	
IV. 発展期 (20世紀後半～)	法によって保護されるもの	・ 新たなリクリエーションを市民に提供 ・ 農園と住居の中間的なものとして発展している

3-1. コロニーヘーヴ法

2001年に「コロニーヘーヴ地域が都市住民にとって今後ともリクリエーションや余暇を過ごすための重要な役割を果たし続けられるようにすること」を目的としてコロニーヘーヴ法(Lov om Kolonihaver)が制定された。

法によるコロニーヘーヴの定義

コロニーヘーヴ法により、デンマークにおけるコロニーヘーヴ地域の定義は以下の条件を満たす5区画以上のコロニーヘーヴ及び、その共有部分のあるエリアを指す。

1) 都市部または農村部に位置するもの 2) 1区画の平均が400 m²を超えないこと 3) 区域内には、農機具の収納および利用者の日中の滞在と夜間の宿泊が可能な建築物を建てることのできるもの 4) 当該等地域にある建物の通年居住が許されていないこと 5) 夏季別荘地には設けないこと、また居住地併設型菜園ではないもの。

コロニーヘーヴは昼間のみ利用可能な「デイガーデン」と夏期6か月間利用可能な「オーバーナイトガーデン」の2種類がある。

恒久ガーデンと非恒久ガーデン

前述の定義に該当する全てのコロニーヘーヴは2011年11月1日から「恒久(長期契約)」か「非恒久(短期契約)」のいずれかに分類され、約62,000戸が対象となり、そのうちの87%が恒久に指定されている。恒久ガーデンを閉鎖するにはその一部あるいは区域全体にかかわらず、州または市議会の許可なくして閉鎖することはできない。州または市議会は、以下の条件に合致する場合にのみ、上に記した閉鎖の許可を出すことができる。1) 自治体の他の場所では代替できない特定の目的のため、社会的に考慮して明らかにコロニーヘーヴを閉鎖せざるを得ない場合 2) 閉鎖されるコロニーヘーヴの明け渡しに先立ち、同コロニーヘーヴの代替地として新たなコロニーヘーヴが設けられる場合。こうすることで事実上恒久ガーデンに指定したものは閉鎖できず、コロニーヘーヴの永続的な保護を可能としている。

法の改正

コロニーヘーヴの需要が増加し、特に首都圏では供給が間に合わず利用を待機する者が増え、賃貸料の値上がりや賄賂が問題となった。そこで公平な利用を担保するため、コロニーヘーヴを運営管理する各協会は順番待ちリストの作成が義務付けられ、賃料は市場価格の最低賃金で取引されることが新たに決定された。

3-2. コロニーヘーヴの空間制度

都市計画法の中で用途地域にコロニーヘーヴ地域があり、都市緑地として位置付けられ、コロニーヘーヴ用途地域の土地利用決定は基礎自治体に権限がある。コペンハーゲン市においては地区計画の中でコロニーヘーヴの計画が立てられており、コペンハーゲン市の上位に当たる首都圏地域の戦略方針である地域計画フィンガープラン⁴や、持続可能社会に向けた国際戦略であるアジェンダ21⁵の指針に沿って策定されている。

3-3. コロニーヘーヴの現状

コロニーヘーヴは1つの区画を1戸と数え、5区画以上が集まって1つのコロニーヘーヴ協会となる。2000年の環境省の調査では、デンマーク全土に62,150戸のコロニーヘーヴが確認されており、そのうち49.4%に当たる約3万戸がデンマークで最も人口の多いコペンハーゲン首都圏に集中している。

首都圏における分布状況

【図2】は、コロニーヘーヴ連盟公式ホームページに掲載され、首都圏に点在するコロニーヘーヴ協회를プロットしたも

のである。設立年代とセントラル駅からの距離、土地所有形態から分布傾向が見られ、【表 2】にまとめた。



【表 2 分布傾向】

分布位置	地理	設立年代	土地所有
●	市の中心から半径2km圏内	1920年以前	自治体所有
●	市の中心から4~5km	1920年~1950年	自治体とコロニーヘーブ協会との共同所有
●	市外へ放射状に広がる	1940年代以降	自治体所有、共同所有、私有所有が混在
凡例	☆…ヒアリング実地 ●…アンケート実地		

【図 2 首都圏における分布図】

コロニーヘーブ利用者像

コロニーヘーブ連盟に登録されているコロニーヘーブ利用者である 39,439 会員を対象に、2015 年 4 月に行われたコロニーヘーブ連盟による調査の結果からコロニーヘーブ利用者の状況を概観すると以下 5 点特徴が挙げられる。1) 約 8 割が都市部に居住し、そのうちの 46.7%が首都コペンハーゲンに住んでいる 2) 利用者全体の 7 割以上が中高層住宅に住んでいる 3) 利用者年代は 40 代、50 代が中心になりつつも、幅広い年代の人がコロニーヘーブを利用している 4) デンマーク全体でも年収の低い人たちが多く利用している 5) 利用者の半数以上は車を所有していない。

4. ミクロ的視点から見るコロニーヘーブの実態

文献では分からないコロニー

【表 3 調査概要】

ヘーブの実態を把握するべく、ヒアリング調査を行った。調査概要を【表 3】、質問内容を【表 4】に、アンケートを行ったコロニーヘーブ協会 7 事例の概要を【表 5】に示す。

対象	質問項目
コペンハーゲン市 (Niels Jensen氏)	・コロニーヘーブの現状実態について ・コロニーヘーブに対する考え方
コロニーヘーブ連盟 (Mr. Preden(会長), Ms. Ditte(職員))	・コロニーヘーブの実態把握 ・コロニーヘーブに対する考え方 ・コロニーヘーブ法に対する考え方 ・コロニーヘーブ連盟の実態把握
コロニーヘーブ協会 (コロニーヘーブ利用者7名)	・コロニーヘーブ協会の実態把握 ・管理、運営、利用実態について ・コロニーヘーブの実態把握 ・コロニーヘーブに対する考え方

【表 4.5 ヒアリング内容と対象者概要】

1. 市民生活に与える影響					
利用目的	利用後の心、体の変化	コロニーヘーブでの過ごし方	家で過ごす時との違い	育てたものはどうするか	協働で行っていること
2. 社会への影響					
コロニーヘーブ法の意義			コロニーヘーブが都市にもたらすこと		
3. その他					
コロニーヘーブの魅力		問題点・改善点		エコロジーとデモクラシーに対する考え方	

事例番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
基礎概要							
年齢	40代(妻)50代(夫)	50代	40代	40代	40代	50代	50代
自宅から何分か	20分(車)	10分(車) 20分(自転車)	10分(自転車)	20分(自転車)	40分(自転車)	10分(自転車)	5分(車) 10分(自転車)
所属する協会名	Hestekøbgård	H/F Bernstorff	H/F Sønderbro	Amager Fælled Økohaver	N/F Ingers minde	H/F Balstrupvænge	H/F Stadion
協会の特徴	庭園のデザイン性が高い	1)週末しか皆使わない 2)規模が小さな協会 3)高齢者が多い 4)ゲントフテ市民しか利用できない	オーガニックで、デイガーデンである	1)デイガーデンである 2)主に農業を楽しむがメインのガーデン 3)コペンハーゲンで最初の有機的なコロニーヘーブ 4)利用者同士の距離も非常に近い	1)デイガーデン 2)1区画の80%は庭で小屋は25mまでしか建てる事ができない 3)年配者が多い 4)コミュニティ関係も友好でみんなで助け合っている	1)今年で75年目 2)3500㎡、475㎡、6300㎡の3つのサイズがある 3)在住場所関係なく利用できる	1)競技場とテニスコートの隣にある 2)リングビーで最大のコロニーヘーブ 3)開園して72年目 4)様々な年代が利用
会員数区画数	46区画	50区画	80区画	約60区画	50区画	60区画	56区画
警備管理主体	利用者	なし	利用者(全員)	利用者(全員)	利用者(全員)	利用者(全員)	利用者・自治・競技場
維持管理主体	利用者 民間企業へ委託	協会組織メンバー	利用者(全員)	利用者 協会組織メンバー	協会組織メンバー	利用者	利用者・自治体
閉鎖中の区域内清掃、警備や維持管理主体	門はなく利用者個々で管理	セキュリティ管理不要	利用者・協会組織メンバー	利用者・協会組織メンバー	利用者	利用者	利用者・自治体

4-1. コロニーヘーブの保護・維持管理・運営

5 戸以上の区画で 1 つのコロニーヘーブ協会が形成され、自治的な運営が行われている。デンマーク全土には約 62,000 戸のコロニーヘーブが確認されているが、全体の約 2/3 に当たる約 40,000 戸がコロニーヘーブ連盟に登録され統括管理がされている。コロニーヘーブ連盟は、賃料高騰につながるサマーハウス化を防ぐため昼間利用と宿泊可能なコロニーヘーブを明確に分け、土地を所有している地方自治体と交渉、各協会と協議しながらコロニーヘーブの利用を促している。また、コロニーヘーブはデンマーク文化であるとし、コロニーヘーブを守ることでデンマーク文化を守ることに繋がることからコロニーヘーブ連盟はコロニーヘーブの保護を進めている。各コロニーヘーブ協会においては管理、運営を行う委員会を設置している。委員会は利用者から選ばれた 3~5 名の代表者で、会長、副会長、会計、運営などから構成され、協会ごとに策定された規則を元に委員会活動を行いコロニーヘーブの実地運営がされている。コロニーヘーブの維持管理に関して、共有エリアにおける清掃は基本的には委員会メンバーか、もしくは当番制で決まった者が行っている。警備、並びに管理責任に関しては、ゲートがある協会におけるゲートの鍵は利用者全員が持っており、ゲートの有無に関わらずどの協会でも利用者一人一人に責任がある。

4-2. 土地所有形態と賃貸

コロニーヘーブの区画内に立つ小屋は利用者の所有物であるが、土地は通常コロニーヘーブ連盟が土地所有者と賃貸借契約を交わしている。コロニーヘーブにおける土地の所有形態として以下 5 つの形態が考えられる。1) 自治体所有(約 8 割) 2) 国(政府)所有 3) 私的企業 4) 共同所有 5) 個人所有。コロニーヘーブ法制定後、政府、私的企業が所有するほとんどの土地をコロニーヘーブ連盟が借り上げたようであり、実質ほぼ全てコロニーヘーブの土地はコロニーヘーブ連盟から借り出されている。

4-3. 利用方法

会員制で借りたいコロニーヘーブの協会へ個人登録を行う。そこでコロニーヘーブが空いていれば土地使用契約ができるが、空いてない場合はウェイティングリストに登録する。都会のコロニーヘーブは需要が高く長時間順番待ちをしなければならない。長いもので 10 年以上待つケースもある。

4-4. 利用実態

調査結果から、コロニーヘーブを利用する目的は、都会の喧騒から逃れリラックスすることが最も多かった。何もせずただ自然を感じ楽しむことでストレスから解放され、心も体も健康であると実感している。コロニーヘーブがあることで、普段とは異なる新たな社会グループを形成でき、その中で民主的な市民活動が行われている。家族や友人、コロニーヘーブ内の隣人たちと現代の発達したコミュニケーションツール

を使わずとも豊かなコミュニケーションを図っていた。この他に、コロニーヘーヴは命や自然の大切さを学ぶスクールガーデンの役割を担っており、デンマーク人のエコロジーに対する概念にも触れることができる。ヒアリングを行った多くの人が、自然に触れることに価値を見出しており、一人一人がそれぞれにエコロジーに関する考えを持っていることがわかった。

5. 分析と考察

5-1. 利用者の意識構造分析

4章で行ったヒアリング回答をKJ法により分析すると、利用者の意識として7点が挙げられ、その意識図を【図3】に示す。多くの人が、コロニーヘーヴに在ることによって心や体が元気になると答えていることから【Iセラピー】的効果があることが分かった。自然に触れることのリラックス効果から、人々は【II自然への気づき、学び】を得ることができる。コロニーヘーヴの空間的大きな特徴は、都市に在りながら農に触れることができる点である。多くの利用者が自分の手で食物を育てることに喜びを感じると答えており、また自ら食物を育て食することで、【III自立】精神を養うことができる。一方で農は一人で行うことができず、お互い助け合いながら【IV協働】していることも分かった。こうした活動から【V都市や社会について】へも意識が向くようになると考える。そうした意識はデンマーク文化の構築につながっている。今回のヒアリングでは、コロニーヘーヴに関する【VI不満】の声も汲み取ることができた。過去には生活環境の改善を求めコロニーヘーヴ運動が起き、2001年にはコロニーヘーヴの利用は権利であるとしてコロニーヘーヴ法が制定されている。このことから現代においてもコロニーヘーヴが社会と深く結びついているといえる。現在では、法が制定されたことで【VII経済的・安価】な利用が可能となり、多様な人々の参加を可能としている。

5-2. コロニーヘーヴの役割

2章から4章で明らかにした事実とコロニーヘーヴ利用者の意識から、コロニーヘーヴの役割は以下3点にまとめることができる。

- 1)都市に在りながら農に触れる機会を与え人々にエコロジーをもたらす
- 2)多様な人々や文化が尊重される
- 3)都市に緑地空間を担保する。

コロニーヘーヴは人と人、人と都市、人と社会、そして人と自然をつなぎ、相互に良い影響を与える。コロニーヘーヴを支える制度だけでなく、都市の中にその空間があり多様な人々の参加によってこれらの役割を果たすことができる。

6. 結論

本研究では、コロニーヘーヴの歴史の変遷とコロニーヘーヴの実態からその役割と影響を分析した。以上のことからコロニーヘーヴの形成意義として以下4点を明らかにした。

- 1)コロニーヘーヴの歴史の変遷、空間的配置を明らかにした
- 2)コロニーヘーヴの変遷は市民権獲得の軌跡である
- 3)都市に緑地を担保し多様な人々の参加を促す
- 4)都市に在りながら農に触れる機会を与え、心と暮らしを豊かにする

デンマーク社会におけるコロニーヘーヴの形成意義が明らかになったことで、経済最優先ではなく今後の日本社会における定着とコロニーヘーヴが発展することを期待する。そのためには、制度や空間を整備するだけでなく、市民の義務を自覚し、市民の権利を自ら勝ち取ることの重要性を再認識する必要がある。

【注釈・参考文献】

- 1)ウィーン市におけるクラインガルテンの健康的住まいとしての展開とその空間実態, 日本建築学生大会学術講演梗概集, 三島伸雄
- 2)都市農園の居住化に関する研究-デンマークのコロニーガーデンを事例として-日本建築学生大会学術講演梗概要, 勝裕子, 2007
- 3)ユトランド半島(ユラン半島)東岸に位置する人口3万7千人の都市で、当時はフレゼリクスオゼ(Frederikssode)と呼ばれた 4)コペンハーゲン大都市圏における地域計画で、コペンハーゲン市(掌)から郊外に向かう複数の交通軸沿い(手の指)に都市開発を集中させ、交通軸相互の間をオープンスペース(緑のくさび)として残すという都市構造の考え方に立脚しており、1947年計画から2013年計画まで、一貫した思想となっている 5)1992年6月にブラジルのリオ・デ・ジャネイロ市で開催された地球サミット(環境と開発に関する国際連合会議)で採択された21世紀に向け持続可能な開発を実現するために各国および関係国際機関が実行すべき行動計画 6)Niels Jensen: Allotment Guide Copenhagen & Surroundings, 1996 7)Amy Damin: Rural life in the city: The chalet garden in Denmark, 2003 8)Miljø & Energi Ministeriet: Kolonihavenes fremtid, 2000 9)conzoom rapport Analyse af kundedatabase for Havebladet 1. april 2015 10)2007年度 修士論文 都市内農園の居住化に関する研究-デンマークのコロニーガーデンを事例として-東京大学大学院工学系研究科建築専攻, 勝裕子 12)アジア各国の国土政策に係る具体的施策分析等に関する調査国別調査報告書【デンマーク】平成24年3月 国土交通省 国土政策局 13)デンマーク法務局 コロニーヘーヴ法原文 14)コロニーヘーヴ連盟公式ホームページ <http://www.kolonihave.dk>

【図3 利用者の意識図】

